

さくら第472号

平成31年4月

# さくら

発行所 さくらそらばん  
 発行者 平瀬重雄  
 春江町境 17-7: TEL51-1337  
 hirase@mx2.fctv.ne.jp

おつかい  
 りんごも  
 おたか  
 くらべも  
 競争も  
 したいけれど  
 それを  
 いちいち  
 ぶんぶん  
 花を  
 じぶん  
 つける  
 つかう

## 『別れは新しい次の道へのスタート』

3月15日(金)の午前9時10分から、春江小学校の卒業証書授与式が挙行されました。前日夕方からの雨は早朝には快晴となり、登校の足取りも軽やかです。

来賓控室で、出蔵直美校長先生の挨拶に続き、黒川光憲教頭先生から学事報告があり家庭地域との連携などについて実践してきた事柄の要約が述べられました。

卒業生106名のうちその進路は、春江中学校へ100名、高志中学校へ3名、福井中学校へ1名、県外公立中学校2名です。式次第は次の通りです。一同礼、開式の言葉、国歌斉唱、新福井県民歌斉唱、卒業証書授与、はなむけの言葉、励ましの言葉、お祝いの言葉、来賓紹介、卒業祝い品授与、わかれの言葉、校歌斉唱、閉式の言葉、一同礼です。

広い体育館には全児童582名、保護者約200人、教職員46名、来賓含め約850名が咳ひとつせず静まりかえっています、卒業生入場のひと声で館内には大きく力強い拍手の中、緊張した顔で106名が入場、着席するとまた静寂な空気になります。校長が登壇、クラス担任から氏名が読み上げられると元気な返事で順次登壇し、校長より卒業証書が手渡されます。壇上から撮られる映像がスクリーンに映しだされるので後方の保護者からもわが子の顔、姿が確認できます。

「はなむけの言葉」のなかで出蔵校長は、今日はお祝いの日でもあるが、自分が色んな人に支えられてきたことに自分で気づいてほしい

と語り、春江小学校は140年の歴史があり、県下で初めて鉄筋コンクリートで体育館が造られた。この1年間、運動会、マラソン大会、スキー教室などに目標をもって練習し、絆を合わせ深めて楽しい思い出を作ってきた。素直な心でよい方向へ進もうという態度がよい。平成から新時代へとうつるなかに皆さんがいる。2つのことを言います。人の心は形がなく見えないから言葉が大事です。人を悲しませるような言葉は使わないでください。2つめは、あたりまえの日常、あたりまえのことをあたりまえに行うことの大切さを知ることです。自分で考え、自分ですすむ人に楽しい未来がくると語りかけました。卒業証書を手わたす時には一人ひとりにやさしいほほえみと視線であったが、このはなむけの言葉ではひとことに力を込め、自分の力でやり抜いてほしいという願いを感じます。

卒業生だけへのメッセージではなく私たちへの言葉として、胆に銘じたいことです。

在校生が歌う「大空がむかえる朝」では、おわりの歌詞♪さようなら さようなら わすれないでね ともに過ごした日々を いつまでも♪

卒業生は「変わらないものを」歌うなかで結びの歌詞は♪君と出会った幸せを かみしめながら 歩いていこう 1年先も 10年先も 変わらない想い これからも ずっと♪

毎年のことながら、この歌を全校児童で厳粛に歌う姿は、胸の奥ふかくしみこみます。

教育委員会からの励ましのことばでは、いつも誰かの支えがあり、感謝を忘れず、積極的に取り組みチャレンジしてほしい。市議会からは、6年間で学んだ多くのことをもとに助けあって困難を乗り越えてやりとげてほしい。PTA会長は、環境がかわり壁にぶつかったら、原点にかえること。ひとりで迷わず、迷ったら、迷わずに原点にかえるという内容でした。

卒業生退場となり、在校生が左右に並び、開けられた中央を拍手に送られて体育館を後にする姿に心の中で頑張れよと見送りました。